

しまなみ地域の幼児健診に関するアンケート調査  
調査結果報告書

令和5年7月  
今治市 地域振興部  
しまなみ振興局 しまなみ住民課 健康増進担当

しまなみ地域(大島・伯方島・大三島)における健康の保持増進と育児支援のより一層の充実を図るべく、1歳6か月児健康診査および3歳児健康診査を評価するためアンケートを実施した。

## 1. 実施期間

令和5年5月8日(月)から5月21日(日)まで

## 2. 対象者および回収率

しまなみ地域に居住している平成30年(2018年)4月2日～令和3年(2021年)4月1日生の幼児のいる155世帯(児童数169人)を対象に実施し、75件(48.4%)回収した。Q2および3の回答内容によると、乳幼児から学童期以上の子を持つ保護者まで幅広く回答があった。回答フォームの使用上、回答に不備があれば送信できないため、有効回答率は100%であった。

## 3. 調査方法

LoGoフォームによるWeb アンケート(二次元バーコード読み取り)を実施した。

認定こども園、家庭訪問、乳幼児相談でのチラシ配布、郵送通知を行った。

## 4. 調査内容

調査内容(概要)			
A	回答者について	Q1	居住地域
		Q2	子どもの人数
		Q3	子どもの出生年
B	幼児健診について	Q4	今治市で市の集団健診を受診したことがあるか。
		Q5	市の集団健診の感想
		Q6	医師について
		Q7	会場について
		Q8	集団健診の島外受診について
		Q9	幼児健診への要望
		Q10	乳幼児健診を費用自己負担で受診したことがあるか。
		Q11	Q10 受診先について
		Q12	Q10 受診した理由
		Q13	Q10 受診しなかった理由
C	子育てや暮らしについて	Q14	困っていることの有無
		Q15	困っていることの内容
		Q16	自由記述

## 5. 集計上の留意事項

構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。またQ15およびQ16などの回答形式が自由記述の項目では、記述内容の主旨を集計者が「キーワード」として抽出し、どのような内容であるか集計した。なお、同じ回答者が複数の事柄について記述しているため、表内の件数と回答者数は一致しない。nは、有効回答者数を示す。

**Q1 お住まいの地域を選択してください。**

大島から21件、伯方島からは32件、大三島からは22件と、各地域から一定数の回答があった。

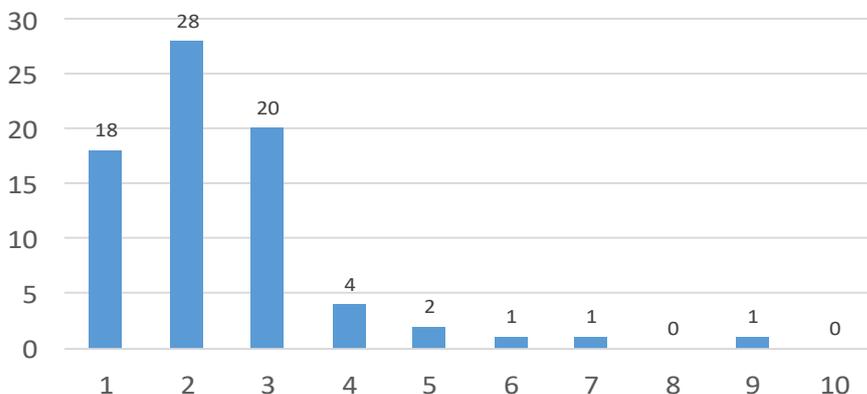
居住地域	対象世帯数	配布数	回答数
吉海	29	25	15
宮窪	21	21	6
伯方	67	72	32
上浦	18	16	10
大三島	22	21	12
その他			0
計	157	155	75

n=75

**Q2 お子様は何人いますか？(妊娠中を除く)**

「2人」子どもがいると答えた回答者が28人(37.3%)と最も多く、次に「3人」と答えた回答者が20人(26.7%)となった。

子どもの人数 (人)

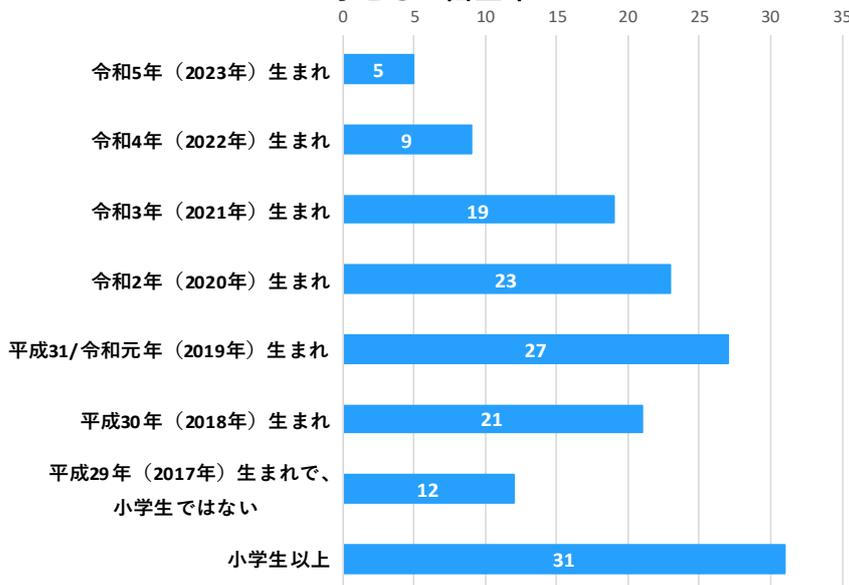


n=75

**Q3 あなたのお子様について、全員の生まれ年を選択してください。【複数選択可】**

未就学児では、平成31/令和元年(2019年)生まれの子がいる回答者が最も多く、次いで令和2年(2020年)生まれが多かった。31人は小学生以上の子どもがいると回答した。

子どもの出生年

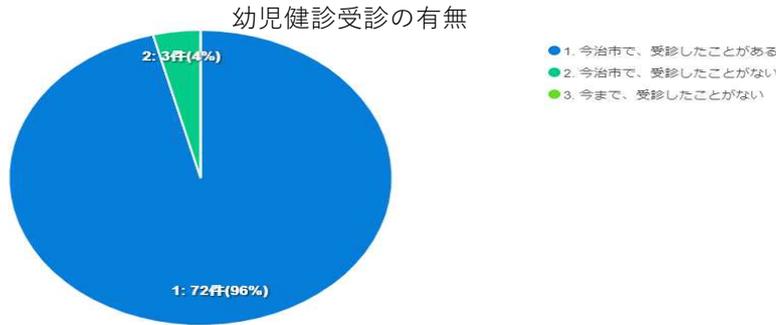


n=75

Q4

あなたのお子様は今治市内で、市の実施する1歳6か月児健診または3歳児健診を受診したことがありますか。市の実施する健診とは、保健センターなどで行われる集団健診のことです。

回答者全員に幼児健診の受診経験があった。うち72件(96%)が今治市で幼児健診を受診していた。



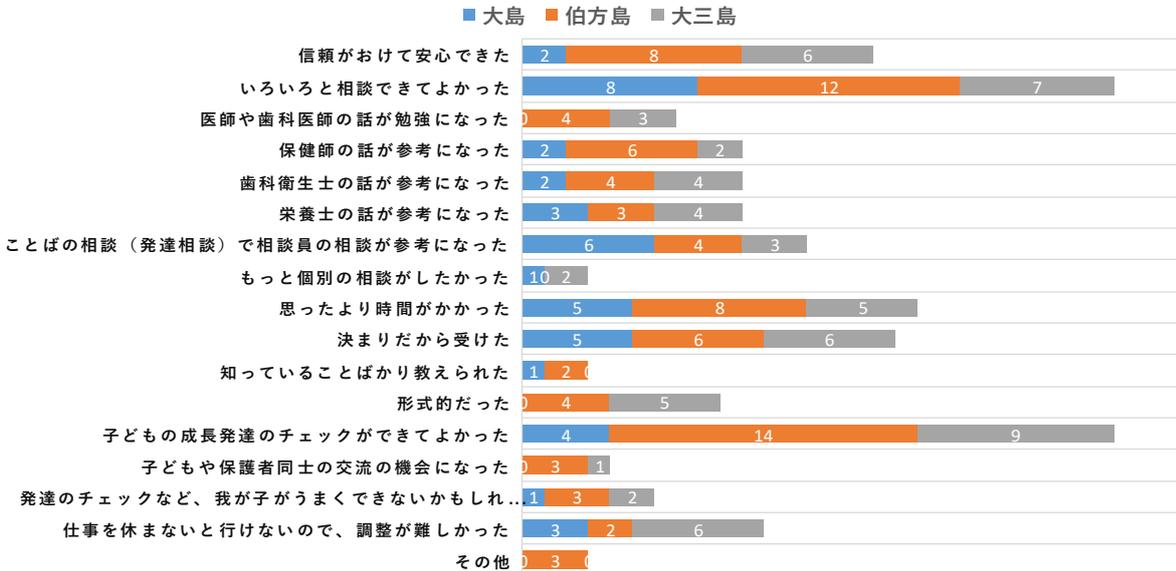
n=75

Q5

今治市で幼児健診を受診した感想を教えてください。【複数選択可】なお、これらの健診は実施について法律で定められています。

57人(79.2%)が「いろいろと相談できてよかった」(38%)と、「子どもの成長発達のチェックができてよかった」(38%)のどちらかまたは両方を選択していた。「思ったより時間がかかった」は18人(25%)、「決まりだから受けた」は17人(23.6%)、「信頼がおけて安心できた」は16人(22.2%)となった。「いろいろと相談できてよかった」または「子どもの成長発達のチェックができてよかった」を選択しなかった15人のうち3人は、「信頼がおけて安心できた」や「(専門職)の話が参考になった」を選択していた。また別の3人は、Q9「1歳6か月児健診や3歳児健診について希望があれば選択してください。」において「今のままでいい」と回答していた。これらを除く9人(12.5%)の回答内容については表1を参照とする。

### 幼児健診の感想



n=75

**Q6 健診でお子さまを診察する医師について、希望するものを選択してください。**

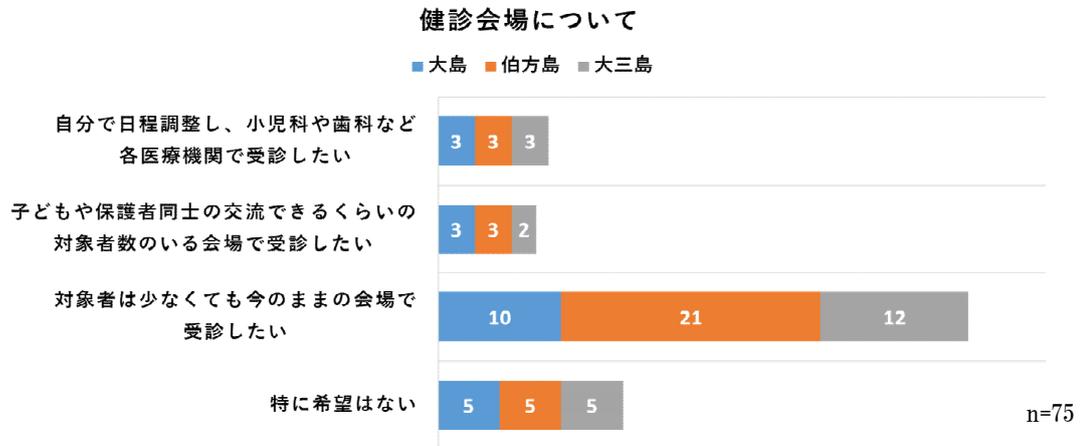
全体の48人(64%)が小児科医を希望した。12人(16%)は島内の医師を希望し、15人(20%)は「どちらでもよい」を選択した。



**Q7 お子さまの健診の会場について、希望するものを選択してください。**

**Q8 子どもや保護者同士の交流ができるくらいの対象者のいる会場で、お子さまの健診を受診する場合、会場がお住まいの地域から離れる場合があります。以下のいずれかを選択してください。**

43人(57%)が「対象者は少なくとも今のままの会場で受診したい」を選択した。15人(20%)は「特に希望はない」を選択した。自分で日程調整し、「小児科や歯科など各医療機関で受診したい」は、9人(12%)が選択した。「子どもや保護者同士の交流できるくらいの対象者数のいる会場で受診したい」は8人(11%)が選択したが、うち6人(75%)は島外への受診は希望しなかった。



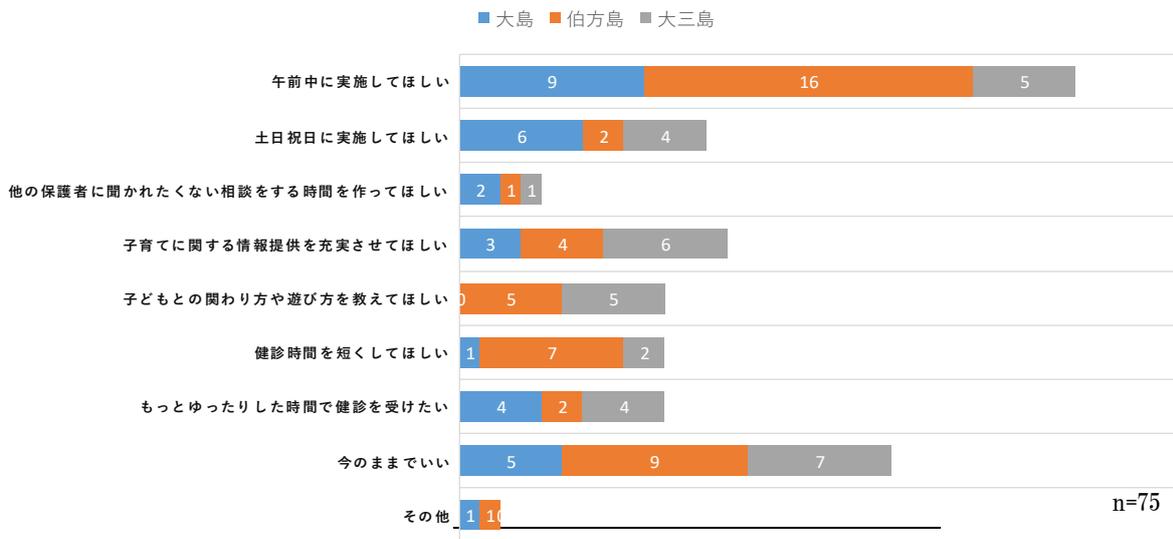
交流できるくらいの会場への移動



**Q9 1歳6か月児健診や3歳児健診について希望があれば選択してください。【複数選択可】**

最も多い回答として、30人(40.0%)が幼児健診を「午前中に実施してほしい」と選択した。また21人(28.0%)は「今のままでいい」を選択した。内容に関して、「子育てに関する情報提供を充実させてほしい」13人(17.3%)、「子どもとの関わり方や遊び方を教えてほしい」10人(13.3%)という結果だった。健診時間の長さについて、「健診時間を短くしてほしい」と「もっとゆったりとした時間で健診を受けたい」を選択した人はそれぞれ10人(13.3%)と同数だった。日程や時間帯について回答した人数は、Q5「市の集団健診の感想」で「仕事を休まないと行けないので、調整が難しかった」を選択した人数よりも多い。

幼児健診に関する希望について



**Q10 あなたのお子様は小児科の健診を、費用自己負担で受診したことがありますか。**

一般的に健診は保険適用外受診にあたるため、費用を自己負担で受診することとなる。今治市においては、母子保健法に基づき、幼児期では集団健診を1歳6か月児と3歳児に対して行っており、乳児期では個別健診(委託医療機関での公費負担で健診)を2回(前期・後期)行っている。この設問では、法定健診(公費負担)とは別に、小児科で健診を受診しているかを問うものである。

56人(74.6%)と、多くが「受診したことがない」を選択し、「数回受診したことがある」17人(22.6%)、「定期的に受診している」は2人(2.6%)と受診経験者は少数だった。

費用自己負担で受診したことがあるか



**Q11 Q10について、受診先の医療機関にあてはまるものを選択してください。【複数選択可】**

受診先については、17人(89.5%)が今治市内であり、2人が広島県内の医療機関であった。島しょ部においては、松山市や西条市などの県内他地域に比べ、尾道市などの広島県を生活圏とする場合がある。

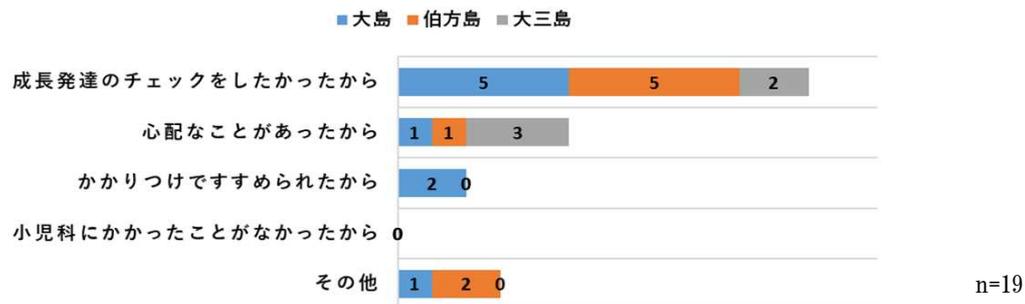
受診先の医療機関について	大島	伯方島	大三島
今治市内の小児科	9	6	2
愛媛県内の小児科	0	0	0
広島県内の小児科	0	1	1
愛媛県・広島県外の小児科	0	0	0
その他	0	0	0

n=19

**Q12 Q10について、理由を教えてください。【複数選択可】**

「成長・発達のチェックをしたかったから」が12件(63.2%)と最も多く、次いで「心配なことがあったから」5件(26.3%)となった。

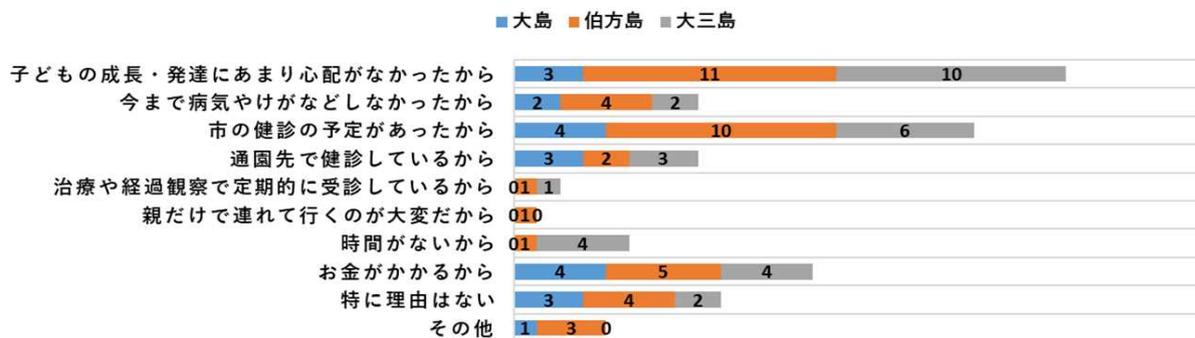
**受診した理由**



**Q13 Q10について、理由を教えてください。【複数選択可】**

「子どもの成長・発達にあまり心配がなかったから」24件(42.9%)が最も多く、「市の健診の予定があったから」が次いで20件(35.7%)、「お金がかかるから」は13件(23.2%)となった。

**受診しなかった理由**

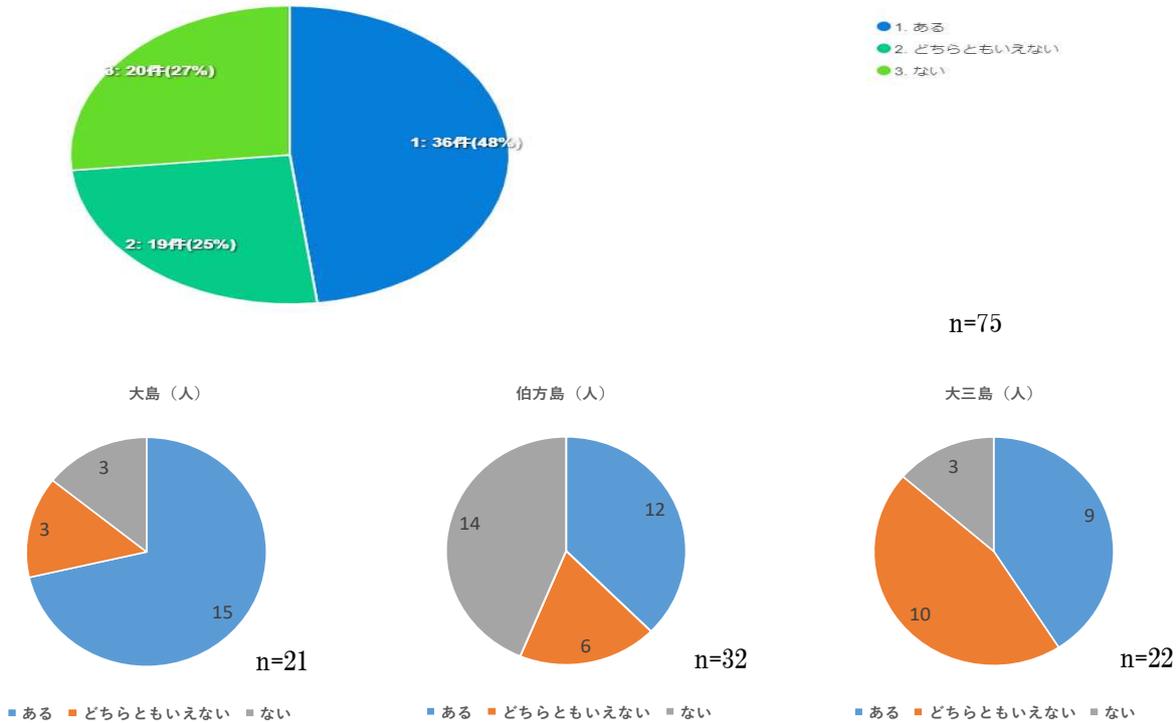


n=56

**Q14 子育てや暮らしで困っていることはありますか。**

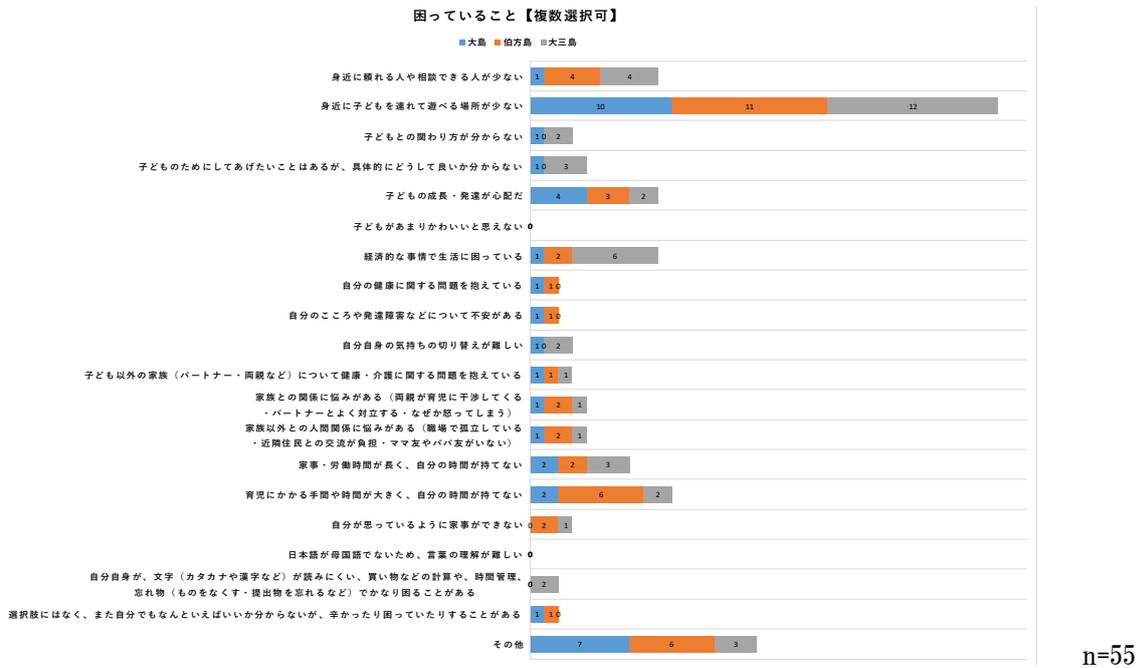
「ある」と答えた方が、36人(48%)、「どちらともいえない」と答えた方が20人(26.7%)、「ない」と答えた方が19人(25.3%)となった。

地域別では、それぞれ大島は「ある」(15人)、伯方島は「ない」(14人)、大三島は「どちらともいえない」(10人)が最も多かった。

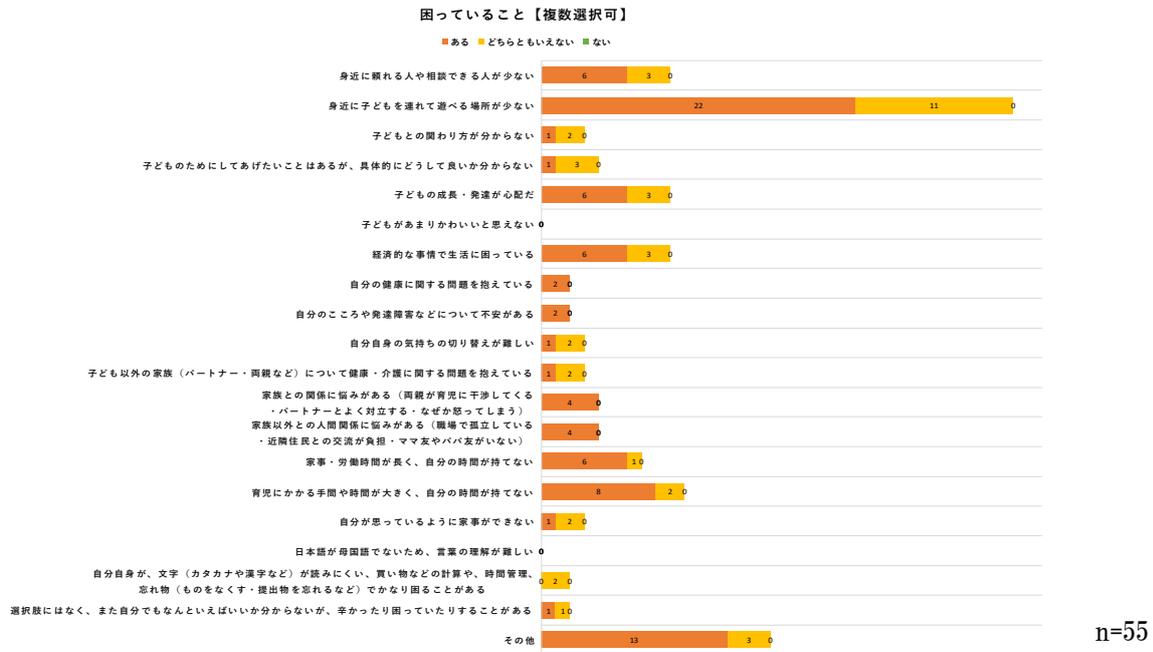


**Q15 子育てや暮らしで困っていることがあれば教えてください。【複数選択可】項目によっては、一緒に解決できることがあります。困っていることはお気軽にご相談ください。**

「身近に子どもを連れて遊べる場所が少ない」を選択した人が33人(44%)と最も多く、次いで、「その他」(自由記載)を選択した人が16人(21.3%)、「育児にかかる手間や時間が大きく、自分の時間が持てない」を選択した人が10人(13.3%)となった。「その他」の内訳としては16人中11人が、しまなみ海道通行料などの交通費に関する内容となった。



n=55



### その他(自由記述欄)

「その他」に記述した者は16人となった。しまなみ海道通行料についてを含む「交通費」についてが最も多く11件、次いで医療機関についてが3件となった。なお、交通費について記述した回答者のうち8人はQ16でも「交通費」について回答している。

キーワード	件数
交通費	11
医療機関	3
その他	4

n=16

### Q16 最後に、今治市の子育てや暮らしについてご意見があれば入力してください。

回答形式は自由記述とした。記述内容から集計者が「キーワード」を抽出し、どのような内容であるか集計した。45人から回答があり、最も多かった内容は、しまなみ海道通行料を含む「交通費」についてで、23件となった。次いで、公園や、スタッフ常駐の施設などの「遊び場」が多く19件だった。うち、13人はQ15でも「身近に子どもを連れて遊べる場所が少ない」を選択している。島しょ部に小児科がないといった「医療機関」に関する内容は6件だった。「幼児健診」については2件であり、それぞれ実施時間と日程に関する内容だった。マスクに関する内容が2件となった。なお、同じ回答者が複数の事柄について記述しているため、表の件数と回答者数は一致しない。

キーワード	件数
交通費	23
遊び場	19
医療機関	6
幼児健診	2
マスク	2
その他	9

n=45

(参考)

○児童数(各年度4月2日生～翌年4月1日生ままで)

R5.6.19時点

大島		
年度	吉海	宮窪
R4	2	3
R3	8	5
R2	6	11
H31/R1	11	7
H30	13	6
H29	8	12

伯方島	
年度	伯方
R4	21
R3	21
R2	23
H31/R1	25
H30	23
H29	29

大三島		
年度	上浦	大三島
R4	4	6
R3	6	2
R2	3	12
H31/R1	6	6
H30	9	7
H29	9	8

○幼児健診の概要

1.対象者

母子保健法(昭和40年8月18日法律第141号)第12条に基づき、今治市3歳児等健康診査実施要綱第3条1項および2項に規定される次の対象者。

- (1)1歳6か月児健康診査 満1歳6か月を超え、満2歳に達しない幼児
- (2)3歳児健康診査 満3歳を超え、満4歳に達しない幼児

2.内容

いずれも、各地域での集団健診。

- (1)1歳6か月児健康診査 身体計測、保健師による問診および育児相談、内科医師診察、歯科医師診察  
管理栄養士相談、歯科衛生士相談、ことばの相談(発達相談)
- (2)3歳児健康診査 身体計測、保健師による問診および育児相談、内科医師診察、歯科医師診察  
目と耳のスクリーニング、屈折検査(フォトスクリーナー)  
管理栄養士相談、歯科衛生士相談、ことばの相談(発達相談)

ことばの相談は、児童発達支援センターひよこ園の相談員に出務依頼し実施する。

内科医師・歯科医師による診察は、各地域の協力医療機関への出務依頼により実施する。

※内科診察において、旧市内および陸地部では小児科医による内科診察をおこなっており、しまなみ地域では、地域の医師が行っている。

3.日程等

地域(島)	回数	会場	事業実施時間
吉海・宮窪地域(大島)	3	旧今治市宮窪保健センター	13:00～15:00
伯方地域	3	旧今治市伯方保健センター	13:00～15:00
上浦・大三島地域(大三島)	2	大三島公民館	13:00～15:00

1組あたり所要時間は、30分から1時間程度であり、個別の状況に応じて相談および検査・診察するため、個人ごとに異なる。

○幼児健診(集団健診)受診者数

R3

大島	1歳半健診	3歳児健診
対象者	22	17
受診者	18	17
未受診	4	0

伯方	1歳半健診	3歳児健診
対象者	25	33
受診者	25	32
未受診	0	1

大三島	1歳半健診	3歳児健診
対象者	14	16
受診者	12	13
未受診	2	3

R4

大島	1歳半健診	3歳児健診
対象者	14	20
受診者	13	20
未受診	1	0

伯方	1歳半健診	3歳児健診
対象者	18	13
受診者	18	12
未受診	0	1

大三島	1歳半健診	3歳児健診
対象者	11	15
受診者	11	14
未受診	0	1

上記の内容については、R3年度およびR4年度対象者が、幼児健診を集団健診(今治市の実施する健診会場で健診を受診したもので)受診したかに関する集計結果である。したがって、未受診者には、受診できなかった者のほかに、市外滞在者や長期入院者、対象年齢外受診者等が含まれる。なお、未受診者については保健師が個別に連絡を取り、訪問等でフォローを行っている。

## 考察

### 1. これまでの幼児健診について

Q5「市の集団健診の感想」において、およそ8割の回答者が、「いろいろと相談できてよかった」、「子どもの成長発達のチェックができてよかった」のどちらかまたは両方を選択しており、これまでの幼児健診は、スクリーニング機能および相談の場として、保護者からポジティブな評価を受けており、有意義であったと考えられる。

一方で、「仕事を休まないと行けないので、調整が難しかった」という意見もあり、健診日程の周知の時期や方法など改善の必要性が示唆された。

### 2. 幼児健診に関する要望について

Q9「幼児健診への要望」では、日程や時間に関する回答が多く、「午前中に実施してほしい」と選択した人が最も多かった。Q5「幼児健診の感想」で「仕事を休まないと行けないので、調整が難しかった」を回答した人数よりも多いことから、単に実施時間だけの理由ではないことが考えられる。

現状の集団健診の実施時間は、児の午睡(お昼寝)の時間でもあるため、検査に集中を欠き、保護者が期待する結果が得られなかったり、児の生活リズムが乱れたことで、対応に苦慮した経験があったりしたのではないかと考えられる。

健診の所要時間については、「短くしてほしい」と「もっとゆったりとした時間で受診したい」の相反する意見が同数であった。一方で「子育てに関する情報提供」や、「子どもとの関わり方」、「遊び方」の助言を求める声が多いことから、待ち時間をできるだけ短縮するとともに、育児相談等の更なる充実を図る必要があると考えられる。

回答の多かった日時に関する意見について、Q5で「日程調整が難しかった」と回答した人以外も選択していた。一方で「今のままでいい」という回答は2番目に多かった。

円滑に幼児健診を運営するためには、適切な時間内に成長・発達のチェックや保護者の相談に対応することが求められている。保護者は、さまざまな養育環境やライフスタイルのなかで、幼児健診を受診するために調整していることを念頭に、関係機関、関係者と協調しながら、すべての児が受診できるような健診体制を検討していきたい。

### 3. 今後の幼児健診について

Q6「医師について」では、過半数が小児科医を希望している。Q15・Q16の自由記述欄において、「小児科が身近にない」といった意見が複数寄せられている。専門家の助言や診察を受けたいということや、日常の診療として小児科医が求められていることに基づいているものと考えられる。

一方で、小児科における自費での健診受診では、7割以上が「成長・発達にあまり心配がなかったから」などの理由で受診したことがないと回答していた。受診したことがある人の理由では、「成長・発達のチェックをしたかったから」が多く、子どもの成長発達や育児をしていくうえで何らかの不安を持つ場合、島外の小児科で受診し、特に気になる点があれば、島外医療機関での健診は受診しないと考えられる。

しまなみ地域は、小児科医師不在地域であり、地元医師の協力で現在の幼児健診が維持できている。乳幼児健診事業の標準化につなげるため作成された「身体診察マニュアル(国立成育医療研究センター)」などを活用して、幼児健診に従事するすべての職種がその内容を共有するよう周知していきたい。

Q7・Q8「会場について」では、過半数が「今のままの会場」を希望した。「子どもや保護者同士の交流できるくらいの対象者数のいる会場で受診したい」と希望した人の多くは、「島外での受診は希望しない」と選択した。このことから、幼児健診の形態は、集約化や個別健診などではなく、島内での受診がより多く希望されていると考えられる。

### 4. まとめ

しまなみ地域(大島・伯方島・大三島)における、子どもの健康の保持増進と育児支援のより一層の充実を図るべく、幼児健診のより良いあり方を検討する材料とするためアンケートを実施した。

現在、考えられる幼児健診の実施形態としては、3島での分散実施から会場を1か所とする「集約化」や登録医療機関での「個別健診」などがあるが、移動手段や交通費など課題も多い。

今回のアンケート結果では、幼児健診の会場は、これまで通り3島での受診がより多く希望されていた。また、健診内容も約8割の回答者が、児の成長発達のスクリーニング機能や専門的相談の場として良い評価を示していた。一方で、子育て相談の充実や所要時間の短縮、開催時間について更なる改善の要望もあった。

しまなみ地域では、少子化および人口減少が深刻であり、幼児健診の対象者数は年々減少している。会場によっては、1回の受診者数が10人を下回ることも多くなっており、子ども達の健やかな育ちを支援し続けるため、これからも中長期的な視点で幼児健診のあり方を継続して定期的に検討する必要があると考える。